

～まちづくり協議会における取組～



1 【活動の趣旨】

「地域を知ろう」を今年度のテーマとして実施した。
地域を歩き、ヒントをたよりに、志津の宝物を自分たちで見つけることで、住んでいる所に興味や関心を持ってもらうのが目的。

2 【特徴的な活動内容】

日 時：平成27年9月26日（土）
9：00～16：00

場 所：志津学区内

追分コース

志津市民センター→無量寿寺→野上神社→
八幡宮神社→志津市民センター

青地コース

志津市民センター→神明宮→小槻神社→
西方寺→志津市民センター

参加対象：小学4～6年生

参加人数：17名

「志津の宝物」ミステリーハイキング

どこに行くの？何をするの？

それは出発してからのお楽しみ！

キーワードは『志津っコナンからの手紙』

参加した子どもたちが4～6人の班に分かれ班のカラーと、同じ色の紙テープを頼りに目的地まで進んで行く。途中で役員がいて、手紙をもらい志津の宝物「建物・文化財・自然」などを探し、いわれや成り立ちを学習した。

帰りには、危険な箇所の確認や、道路のゴミ拾い、妖怪ゴミホカスーズを退治しながら市民センターまで帰ってきた。

3 【実施に当たっての工夫】

道案内用に役員が事前に色の紙テープをはりに回った。役員がついていて一緒に回っているが助言をするだけで正解は子どもたちが相談しながら答えを出していくようにした。

文化財のところに手紙を持った役員に立ってもらった。

最終目的地でも、役員から事前に作った課題をもらって暗号解読文の作成し、謎を解いていくようにした。

4 【事業の成果】

歩いて地域を回り、目的地では地域の方々からお話をいただいて、志津の魅力に触れることができた。

グループ内で協力しながら暗号を解いて、何が宝物なのか知ることができた。

5 【事業実施上の課題】

「地域を知ろう」を今年度から始めた。学区内に宝物はいっぱいある。今後どのように継続し、協働合校の活動を、展開できるかが課題である。



役割分担の話し合い



青地コース探検



追分コース探検



ゴミホカスーズ

退治中



班ごとに

まとめました

1 【活動の趣旨】

大人と子どもが共に活動することによって共に学び合い、地域で子どもが育つまちづくりを進め、もって子どもの健全育成に資することを目的として事業を進めている。

2 【特徴的な活動内容】

◆南っ子宿泊体験 2015

8月8日(土)～9日(日)にかけての1泊2日、小学4～6年生までの25名が市民センターでの宿泊を通して、異学年で構成された班の仲間と力を合わせて衣・食・住を体験する中で、子どもたちの自主性を育てることを主たる目的とし実施した。

○事前説明会（8月3日実施）

参加者とその保護者を対象に実施した。班内での役割分担や夕食に使う食材について話し合いを行った。

○夕食の買い物&食事作り

開校式後、班ごとにお金と電卓を持参し食材を買いにスーパーへ。カレー・サラダ・デザート の範囲内で、班で相談しながら予算内で購入した食材で、バラエティ溢れる夕食が出来上がった。

○牛乳パックで紙すき体験

地域の方の指導のもと制作した。事前説明会時に持参した牛乳パックを下処理後、小さくちぎって一晩水につけ、ミキサーにかけてドロドロになった液を漉き、間に自然の草花を挟んだり、色を付けたりしてハガキを作った。



3 【実施に当たっての工夫】

- ・1泊2日の中に多くの体験活動を取り入れることで子どもたちを時間で追い立ててきた従来のやり方から、体験活動を紙漉きひとつにしぼり、夕食の買い物と食事作りという基本的な日常生活を異学年で過ごす中で、自分に与えられた役割を果たすという内容に変更した。食事のメニュー決めも子どもたちの意見を尊重し、自主性に任せた。

- ・25名を5つの班に分け、それぞれに担当の役員を配置した。去年は、活動ごとに担当者が変わったが、今年は2日間を通して同じ大人が担当するように配慮した。

4 【事業の成果】

- ・募集の際にチラシに掲載した体験活動が例年に比べ少なかったせいか、参加希望者は例年より少なかった。しかし参加した子どもたちは、無理のないスケジュールの中でゆったりと異学年交流ができ、また、各自の役割もきちんと果たせていた。

- ・同じ大人が2日間担当したので、より密に地域の子と関わることができた。

- ・まち協指定管理後の事業展開を視野に入れ、完全に市民センターの手を離れ、地域協働合校推進委員会独自の力で事業を企画運営、実施することができた。

5 【事業実施上の課題】

次年度からは子ども会や町内会等と連携した事業の推進を検討中である。その仕組み作りや、事業内容の見直しと共に、若い世代の委員会への参加が課題である。



1 【活動の趣旨】

子どもの自主性を大切にし、子どもを主体とした行事にする。自分や友達の良いところを見つけ、住んでいるまち「草津」をより知るために、地域と学校が協力し、地域に根付いた内容を組み込み、子どもたちの自分力をUPさせる。

2 【特徴的な活動内容】

○「公民館の家体験合校」

小学4～6年生を対象に、公民館で1泊2日の宿泊体験をしました。地域の方に畳の作り方を学び、バターやお豆腐、キャンドルを手作りし自分ですることの面白さも学んでもらえました。えふえむ草津に生出演したり、タブレットPCを使った環境学習もし、いろいろな体験をしてもらいました。

○「つくりもの」

地域の子どもたちを対象に募集し、納涼まつりに出品する「つくりもの」を作りました。今回、草津学区では初めて子どもたちで企画・作成し、「空に向かって」というタイトルで大きな気球とひまわりをリサイクル品で作りました。ひまわりは作った人の個性が出て、納涼まつりに花を添えていました。

○「おもちつき大会」

地域の子どもたちを対象に、杵と臼を使いおもちをつく体験をし、つくたてのおもちを食べました。時間の合間にはブーメラン作りをし、飛ばして楽しみました。寒い日の開催になりましたが、最後には温かい豚汁で心も体も温まりました。

3 【実施に当たっての工夫】

異学年との班分けをすることで、助け合いながら行動できました。大人は子どもが自主的に活動できるよう努め手助けをしました。「おもちつき」はノロウィルスやインフルエンザが流行りだした時期でもあり、衛生面を特に注意して開催しました。

4 【事業の成果】

地域に住んでいながら、知らないことも多かったのですが、事業を通して地域の方々とふれあってもらえました。「楽しかった」という言葉と共に次の事業に友達と参加してもらえたことが成果になりました。子どもたちも自分自身の思いが実現していくことで、最後までやり遂げられました。

5 【事業実施上の課題】

子どもの自主性を尊重しつつ手助けするという加減が難しい。また、支援者として事業に参加してもらおう地域の方々が限られてしまう。より多くの参加者と地域の方々が参加できる工夫が必要であると感じました。



(公民館の家体験合校)



(公民館の家体験合校)



(つくりもの)



(おもちつき大会)

1 【活動の趣旨】

「子どもと大人が力をあわせてつながろう」をテーマに、「自然でみんなとつながろう」と「おおじフェスタ～つながり～」の2つの事業を通して、協調性、創造力、自立心を高め、さまざまな体験を通して地域の方々とふれあい、学びあい、楽しくつながりをもつ場にしてもらう。

2 【特徴的な活動内容】

「自然でみんなとつながろう」

小学3～6年生を対象に里山自然体験のクイズラリーを通して環境について学び、竹の工作では各自が思い思いに創造力を発揮して取り組むことができた。

(実施日：11月1日 参加者数：子ども22名、地域協力者14名)

「おおじフェスタ～つながり～」

8箇所の体験ブースを設け、非日常的な昔あそびや餅つき、学びの場としての紙コップスピーカー作りやはずむシャボン玉などを体験して子どもたちの笑顔があふれていた。子どもたちが地域の方や大学生とふれあい、学びあい、人と人のつながりを持つことができた。(実施日：1月31日 参加者数：子ども150名、保護者82名、地域協力者等110名)

3 【実施にあたっての工夫】

(1)「自然でみんなとつながろう」では、地域性を考慮して自然環境の中での活動とし安全面を第一に場所と内容を決定した。

(2)「おおじフェスタ～つながり～」では、多くの方に参加してもらうため幼児から大人まで楽しめる体験型の内容とし、子どもたちには学びの要素を持つプログラムも取り入れた。

(3)運営スタッフについては、地域内の各種団体の方たちに依頼をして人数の確保をし、役割分担については年齢層等を配慮して行なった。

4 【事業の成果】

(1)自然の中での活動は、日常生活で接したことのない生き物や植物に関するものを含め里山の自然環境について楽しく学ぶことができた。また、ナタやノコギリ等の道具を初めて使う子どもたちが地域住民スタッフと一緒に使い、ケガも無く作品を仕上げて達成感や一体感が感じられた。焚き火の灰で作る焼き芋は子どもたちには初めての体験で、そのおいしさに驚きと笑顔があふれていた。

(2)館内での活動は、地域住民スタッフの協力のもと各プログラム共順調に活動できた。また、大学生の協力もあり独自のプログラムを展開してもらえた。

地域の特性上、家庭での餅つきは少なく、子どもたちは興味を持って体験していた。紙コップスピーカー作りとはずむシャボン玉は科学の学びにつながり、昔あそびは地域の人々と楽しくふれあう体験となった。

5 【事業実施上の課題】

今後も地域性を考慮し体験型を中心とした、多くの子どもたちが参加できる活動を検討していきたい。



みんなが集中して竹の工作の説明を聞く



クイズラリーに挑戦中！



頑張ってコイル巻きに集中



初めての餅つき「頑張って！」



1 【活動の趣旨】

「いいなあ いいなあ とともに学んでふれあうまち 渋川」を合言葉に、学校と家庭と地域が関わり合いながら、大人と子どもが世代を超えて、ともに協力し合い、ともに学び、ともによろこびを分かち合えるまちづくりを目指し地域協働合校事業を進める。

2 【特徴的な活動内容】

○「じゃがいも収穫体験」

前年度2月に渋川小学校の畑に植えたジャガイモを子どもと大人が協力しながら土の中から収穫し、グラウンド端にあるかまどベンチの大鍋でゆでたほくほくのジャガイモを大地の恵みに感謝しながら食べた。

《概要》日時：平成27年6月20日（土）

午前9時～11時30分

場所：渋川小学校プール横の畑

参加：大人110人・子ども127人

○「ちょっと早いクリスマスふれあいコンサート」

今年度は渋川学区の人も所属している「滋賀男声合唱団」と「草津中学校吹奏楽部」に出演いただき地域の大人と子どもがいろいろなジャンルの本格的な音楽にふれながら、一緒に歌ったりして音楽の魅力を学び交流した。

《概要》日時：平成27年11月28日（土）午後2時～4時

場所：渋川小学校 体育館

参加：大人243人・子ども116人

3 【実施に当たっての工夫】

屋外での取組については、スコップや包丁を使う作業も含まれることから、子ども育成部会員や地域の方々にご協力いただき、安全面で細心の注意を払うようにした。

また、体育館で行う事業については開催時期の気温が低いため、ストーブやカイロを活用し、少しでも暖かく参加していただけるよう工夫した。

4 【事業の成果】

「じゃがいも収穫体験」では、地域の人や事業者の協力を得ながら、子どもたちが種イモ植えから日常の手入れや収穫までを実際に体験することで、食物を作る大変さを学び、物を大切にする意味を感じ取ることができた。

「ふれあいコンサート」では多くのメンバーが協力し合って奏でるすばらしいハーモニーを聞くことにより、協調し協力することの大切さを学ぶことができた。

各事業とも、毎年参加者が増えていることから地協の事業として定着してきている。

5 【事業実施上の課題】

活動によっては、事前準備をしすぎる場合もあり、子どもたちが大人の人と相談しながら考え学んでいけるような事業にしていきたい。

じゃがいも収穫体験



ふれあいコンサート





1 【活動の趣旨】

- ・ 仲間との協働生活を体験することにより、協調性・自主性・自立心を育み高める。
- ・ 家族に頼りきりになりがちな食事作りや掃除、洗濯といった基本的な生活に関わることを自らが行い、家族の大切さに気づき自分自身を見つめなおす。
- ・ 地域の様々な方に関わって頂くことにより、子どもたちと地域の方との結びつきを強め、また地域の方々の青少年健全育成への関心を高める。
- ・ 自然環境保全の大切さを体験学習することにより、環境に対する意識の向上を図る。



2 【特徴的な活動内容】

- ・ 矢倉市民センター等の施設を利用したの宿泊・自炊体験
 - 1) 子どもたち自らが料理を作って食べることや、整理・整頓・後片付けなど「自分のことは自分でする」生活習慣を身につけ、自立した人間力を身につける。
 - 2) 「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムを身につける。
 - 3) 学年を超えて子どもたちが一緒に生活体験をし、協調性の大切さを知る。
- ・ その他体験活動
 - 1) 質志鍾乳洞公園での冒険や高穂中学校での星空観察などを体験することにより、子どもたちが自然に対し関心を持ち、理解を得る。
 - 2) 班別の創作活動をおこなう事により、創造力、リーダーシップ力、自己表現力、責任感を高める。



3 【実施に当たっての工夫】

班を編成し班ごとに活動することにより、コミュニケーション能力を培い、仲間意識の向上や責任感の醸成を図る。

- ・ 班名、係、目標、班別メニュー決め
- ・ 目標カード、名札、手形、旗作成

4 【事業の成果】

協調性・自主性・自立性の向上

- ・ 様々な体験を通して成長し、スケジュールに合わせて自ら行動できるようになった。
- ・ 各家庭に帰ってからも自分のことは自分でするなど、自主性・自立性が見られるようになった。

コミュニケーション力の向上

- ・ 仲間との協調性を育み、コミュニケーション能力が高まった。

5 【事業実施上の課題】

事業の魅力幅広く伝えるための工夫

一度参加した児童からは毎年参加希望があるが、一度も参加していない児童や保護者に、体験合校の魅力をどう伝えることが出来るかが課題であると考えている。



1 【活動の趣旨】

「手をつなぎ、心通わす 誘・融（とけ合う）老上」をテーマに、地域の子どもたちが地域のおとなと共に学び、交流を深め合う事業を行う。人と人が思いやり、ふるさと老上を愛する子どもたちになることを願う。

2 【特徴的な活動内容】

○「わくわく王国2015」（公民館宿泊体験）

小学4～6年生を対象に、老上小学校体育館・老上公民館で1泊2日の宿泊体験活動。今年のテーマは、「スター★ドームにかける夢」、来年の老上小学校分離を前に楽しい思い出づくりとなるよう企画した。スター★ドームは、竹を骨組とし、直径6メートルの巨大ドーム3基を作った。竹の切り出しから、加工までの準備は、おとなの作業。組み立ては、子どもたちと協働で行った。



子どもたちが班ごとに障子紙にそれぞれの夢を描き、骨組の上に張り合わせた。夜のドリームタイムでは、テーマの「夢」にあわせて、老上小学校PTA読書ボランティアによる大型紙芝居をみた後、地元の小学校出身の児童作家、深月ともみさんから仕事と夢のお話を聞き、最後にピアノとギターの演奏で「夢」にちなんだ歌をみんなで合唱した。恒例となったかまどベンチを利用したのドラム缶風呂体験、七輪を使っの料理やバイキング料理づくりは、子どもたちと地域のおとなと共に交流が深まった。

○「夏休みの友」

夏休みの子どもの居場所づくりとして、公民館で、活動されているボランティア団体「点字つばさの会」や自主教室「俳画みずひき会」に協力いただき、体験講座をした。また、公民館の開放サロンの囲碁将棋サロン、なかよしピンポンや映画鑑賞会を行った。



○夢街道「あいさつ通り」の推進

毎月8日の登校時に、声掛けを学区全体で取り組んでいる。また、公民館の庭に年に2回花を植えた。

3 【実施に当たっての工夫】

宿泊体験では、子どもたちが主体的に活動できるようにおとながあまり手を出さないように心がけた。過去の参加者に、サポーター参加を呼びかけた。

4 【事業の成果】

宿泊体験は、来年も参加したいという声が多かった。

「夏休みの友」では、日頃おとなだけの活動だが、地域のおとなが子どもたちとふれあい、学び合う機会となった。

5 【事業実施上の課題】

宿泊体験では、サポーターとして中・高校生が参加しやすい日の設定の必要がある。企画から、子どもたちがかわれるよう運営の仕方を考える。

■ 玉川子ども体験合校 防災学習『何でも“サマーチャレンジ”』

【玉川学区まちづくり協議会 玉川子ども体験合校実行委員会】

1 【活動の趣旨】

災害時の一時的避難所生活と防災防犯学習の中から自ら学び、考え、判断して、互いに協力し合って生活力を養うことを目的とする。

2 【特徴的な活動内容】

日時：平成27年7月19日（日）14：00～7月20日（月）11：30

会場：玉川小学校

対象：玉川学区の小学3年生～6年生（参加者：75名・協力者：61名）

主催：玉川学区まちづくり協議会文化・教育部会 玉川子ども体験合校実行委員会

共催：玉川小学校

協力：湖南消防レスキュー隊、湖南消防防災指導課、草津・栗東交通安全協会玉川支部、まちづくり協議会防災・防犯部会、環境・景観部会、青少年育成、民生・児童委員、補導委員、消防第3分団

<事業内容・協力団体>

1日目 7月19日(日)		2日目 7月20日(月)	
14：00	開所式	6：30	◆起床・ラジオ体操・集合 点呼 朝食（おにぎり、みそ汁）
14：30	◆暑さに勝つために！ プールで泳ぎ遊ぶ 夏休みを安全に過ごすため 水の怖さ、事故を知る！ AED、人工呼吸法を学ぶ。	9：00	◆クイズ「玉川っ子検定」に チャレンジ!! 本年度まちづくり協議会環境 景観部会作成の「玉川を知る クイズ式検定」にチャレンジ し、防災力の向上に役立てる。
16：00	◆“グラドン号”で揺れの 怖さを体験する！ 新しい起震車で、地震による 揺れ（強度）と、恐ろしさを 肌で感じ取る。	11：30	閉所式：解散
16：45	◆ルールとマナーを守る 自転車の乗り方 法改正による自転車の安全 なルールを学ぶ。		
17：30	◆宿泊体験（一時避難所での 宿泊を体験する） 夕食の自炊（カレー作り） 足湯・ドラム缶風呂・寝床作 り・カブト虫（小屋）の観察		
21：30	消灯・就寝（夜警、巡回）		



グラドン号地震体験



ヒューマンチェーン



カレー作り



玉川っ子検定



3 【実施に当たっての工夫】

消防、その他各種団体の協力により、日常では体験できない防災・防犯・救助等についての学習と、避難所での宿泊体験を通して、自ら考え行動し、協力し合うことの大切さを学ぶことをねらいとした。

4 【事業の成果】

3年生から6年生で編成された班でのグループ活動を通して協調性、責任感について考え、体験で震災についてしっかり向き合い、学ぶことができた。

5 【事業実施上の課題】

協力者との細部の打合せの時間がしっかりと持てなかった。実行委員は毎年大半が変わり、経験のある地域の協力者に頼ることが多かったため、実行委員がもっと中心となって活動できるように工夫していきたい。

1 【活動の趣旨】

子どもたち一人ひとりが、日頃から防災・減災に対して正しい知識を身につけ、予め心構えをしておくことにより、いざという時に自分の「命」を守ることができるようにする。

2 【特徴的な活動内容】

○「なまずの学校」

たかしま災害支援ボランティアネットワーク「なまず」さんの指導でパズルやゲームをしながらの防災学習や、ストローを使っての耐震模型作りや液状化実験などを体験し、地震による災害がどのようにして起こるかの仕組みを学び、防災の重要性を再認識することができた。また牛乳パックやポリ袋を利用しガスや電気を使わずにできる料理体験をした。

○「火おこし体験」

大阪ガス（株）近畿圏部の指導のもと、板と棒と紐を使い火おこし体験を行った。

○「地震体験と東日本大震災のお話」

湖南広域消防局の新グラドン号で実際の地震のように、縦揺れや横揺れなどを体験し、避難の仕方を学んだ。また消防士さんより救助活動の立場から東日本大震災の時の話を聞き、自然災害の恐ろしさをあらためて感じた。

○「まちなか探検・防災マップ作り」

一般社団法人日本損害保険協会主催の「小学生のぼうさい探検隊マップコンクール」に参加し、協会公認の防災博士のみなさんにご指導いただき、自分たちの住むまち危険箇所や避難経路などを確認し、防災マップ作りをした。

3 【実施に当たっての工夫】

- ・子どもたちが安全に活動できるように地域の団体の方々に見守りサポートをお願いした。
- ・防災合宿3年目となるので、実際にやってみる（行動する）活動を取り入れた。

4 【事業の成果】

地震など自然災害の怖さを認識し、そのための対策を実施体験することでより身近なこととして学ぶことができた。家庭だけではできない集団で寝食を含めて体験できる合宿は自らの身を守ることと共に、他の人と協力しあうことの大切さを学ぶよい機会となった。また、地域の方と関わることで自分たちの住むまちに興味をもつ子どもが増えた。

5 【事業実施上の課題】

- ・夏季の実施のため、暑さ対策をもっと充分にするべきだった。
- ・高学年の児童に対し就寝時や入浴時により細やかな配慮をする必要があった。



(新グラドン号で地震体験)



(ストローで耐震模型作り)



(火起こし体験)



(まちなか探検)



(流しそうめん)



(防災マップ作成)



(ドラム缶風呂)



1 【活動の趣旨】

地域の大人と子どものふれあいを大切に、地域の子どもたちが集える居場所づくりとして、学区内各種団体に協力していただき、地域で子どもたちの成長を見守る。

2 【特徴的な活動内容】

○「2015やまだアドベンチャーハウス」

学区内の4～6年生を対象に募集し、今年度は47名の参加者で7月25～26日に開催した。

1泊2日のスケジュールで手作り体験、料理体験、防災体験、流しそうめん、度胸だめしを楽しんだ。

2日間の運営には、部会の役員をはじめとして、学区内の各種団体に全面的に協力していただき、大人と子ども大勢が一堂に介して活動できる貴重な場となった。

○ふれあいまつり子どもコーナー

学区ふれあいまつり(10月25日)にて子どもコーナー模擬店を担当した。

学区内の4～6年生を対象に、募集し集まった13人のメンバーで計4回の子ども会議の中で子どもたちが主となり、模擬店の企画・準備・運営を話し合いました。

○「わんぱくひろば」

平成27年度は5回開催した。

7月には学区老人クラブ連合会のお年寄りと「七夕かざり」を作り、11月は「工場見学」で京都市青少年科学センターと朝日新聞京都工場を訪れました。12月には「書初め」、1月は「ジェルキャンドル作り」、2月に「BBSさんと遊ぼう&パンケーキ作り」を実施した。

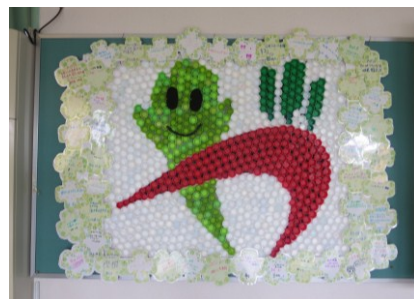
3 【実施に当たっての工夫】

学区のまちづくり協議会地域協働合校部会員が中心となり企画・運営を行った。

子どもたちと直接関わりのある親世代が積極的に関わっていることで、参加者のニーズにあったイベントが開催できていると思う。

4 【事業の成果】

今年度からまちづくり協議会の主催事業になり、部会の役員が中心となって各事業を開催した。これにより、地域の方々とまちづくり協議会との関わりがより密接になり、また、アドベンチャーハウスで、まちづくり協議会のシンボルマークの壁画づくりをしたことで、子どもたちにもまちづくり協議会の存在をアピールできたのではないかと思います。



5 【事業実施上の課題】

近年の傾向から、わんぱくひろば事業は低学年の応募が圧倒的に多くなっているので、これに合わせた事業内容の見直しが必要であり、それに伴い、部会員や事業サポーターの充実が不可欠である。

1 【活動の趣旨】

「子どももおとなもともに学び、ともに育つ」

子どもとおとなのふれあい、地域と家庭のつながり、みんなが協力し、ふれあいの中から地域の伝統文化の良さを学び、次の世代へとつないでいく子どもたちの育成を目指す。

2 【特徴的な活動内容】

○「もちつき体験」

☆日 時：平成27年12月13日（日）
9：00～12：30

☆場 所：笠縫小学校体育館・周辺

☆参加者：子ども108名、地域103名

もちつきとあそびを通して、地域の人とふれあい、協力し、活動することで達成感を得ることができた。

○「書き初め大会」

☆日 時：平成28年1月6日（水）
9：30～13：00

☆場 所：笠縫市民センター

☆参加者：子ども35名、地域28名

学校と連携し、小学校の先生に指導していただくことで、子どもたちの意欲が高まり、「書」への興味が広がった。また、大学生との交流では、異年齢の子どもたち、地域の人たちとの絆ができた。

○「宿泊体験：ふれんど♡はうす」

☆日 時：平成27年7月23日（木）・24日（金）
23日9：00～24日14：00

☆場 所：下笠会館

☆参加者：子ども22名、地域66名

地域にある施設を利用することで、多くの方々に関わっていただき、活動を通し、地域と子どもたちのつながりが図れた。



3 【実施に当たっての工夫】

子どもたちが主体的な活動ができるよう、おとなたちのかかわりへの配慮。異年齢の子どもたちが、多く参加できるプログラム作り。

4 【事業の成果】

子どもたちをはじめ、保護者にも見学、参加していただくことで、地域とのつながりが広まり、地域住民の主体的な活動の一步となった。

5 【事業実施上の課題】

地域住民が作りあげる「笠縫」を目指し、若い世代の保護者、学生ボランティア等、幅広い世代、分野でのボランティアを増やし、子どもたちの学びの場を広げていける工夫が必要。

■ 宿泊体験『ハンター東っ子』・「みんなで遊ぼうさい」

【笠縫東学区まちづくり協議会 地域協働合校推進協議会】

1 【活動の趣旨】

子どもたちが共同生活する中で、仲間づくりや協力しあうことを学ぶと共に、日ごろできない体験や地域の人々との交流を通して、他人への思いやりや協調性、自主性を身につけることを目的とする

2 【特徴的な活動内容】

○「宿泊体験ハンター東っ子」

期 間：平成27年7月25日～26日（1泊2日）

場 所：笠縫東市民センター（公民館）

参加対象：笠縫東小学校4～6年生

参加人数：45人（男子14人・女子31人）

協力者：105人（延べ人数）

協力団体：西消防署、（社福）誠光福祉会

- ・『東っ子農園』を2ヶ所設置して自分たちの食事に使用する野菜の植え付けや草取りなどの世話を子どもたちで行った。

5月23日（土）、7月11日（土）

- ・実施のための事前説明会および研修会

7月4日（土）13:30～15:00

- ・スケジュールと内容

〔7月25日〕

午前 西消防署見学、防災体験

昼食 炊き出し体験：炊飯袋で炊いたご飯

午後 東っ子農園で作った野菜の収穫

夕食 収穫野菜を使用して夕食作り（カレーライス、サラダ）

芸術体験「フルートの演奏と体験」

〔7月26日〕

午前 陶芸体験「ランプシェードの制作」

昼食 地域の方々との交流「バーベキューと流しそうめん」

午後 新聞作り

○「みんなで遊ぼうさい」

日 時：平成28年1月31日9:30～12:00

場 所：笠縫東小学校

参加人数：幼児27人、小学生52人、保護者41人、計120人

協力者：67人

協力団体：西消防署、富士産業（株）

- ・子どもたちがスタンプラリーでの体験を通して防災を学び、有事の際の行動、命を守ることの大切さを学ぶ。
- ・起震車、煙中体験、避難所体験、キッチンカーを使用した食事提供等の被災を体験。

3 【実施に当たっての工夫】

① 地域との交流

- ・地域のグループホーム内の農園をお借りし、入所高齢者と共に野菜づくりを行った。

② 児童の自主性・主体性を育成

- ・宿泊体験では、食事の準備や片付け、就寝時の準備や片付け等参加者との協調性を保ちつつ、自主的・主体的に行動することを重点に育成。
- ・野菜の栽培は、苗の植え付けから収穫までを地域の方の指導により行った。

4 【事業の成果】

- ・協力者は、子どもの支援・見守りの役割とすることで、子どもたちがお互いに助け合い協力することができた。
- ・子どもたちが地域内の福祉施設に関心が持てた。
- ・福祉施設との協働により、施設にも喜んでいただけた。
- ・地域の方の協力により、無農薬の安心安全な野菜が収穫でき、地産地消を学んだ。
- ・西消防署での見学や放水体験、『みんなで遊ぼうさい』での起震車体験、煙中体験、ダンボール被災体験等を通して、改めて防災の大切さを学んだ。

5 【事業実施上の課題】

- ・協力者の高齢化



1 【活動の趣旨】

「ふるさと探検」は地域の歴史や文化、自然などについて、子どもと大人が共に学ぶことによって「ふるさと常盤」に対する誇りと愛着を深めることができるように実施するものである。

2 【特徴的な活動内容】

常盤学区には16の町内会がある。16の町内会で順番を決め、子どもと大人と一緒に町内を歩き、ときわの歴史や地域で守られている風景を肌で感じながら、ときわ16町のええところを発見、再発見していく。

また、山崎宗鑑生誕の地にちなみ、感じたこと、知ったことを俳句で表現し、作品（小学生）の中から優秀作品2句を選んでふれあいまつりで表彰することになっている。



【花摘み寺跡と太子堂へ】

3 【実施に当たっての工夫】

募集をするにあたり、どのようにして子どもたちの興味をひくか、どうしたらたくさん子どもたちが参加してくれるかを担当の町内会や文体教部会でいろいろと協議し、事業の内容について子どもたちの夏休みの思い出に残る事業となるよう計画している。

そして、スポ少の子どもたちも参加しやすいようにと実施を夏休みの平日にするなど、試行錯誤をしながら事業を継続している。

4 【事業の成果】

今年度は下物町町内会の協力をいただき8月7日（金）に実施した。小学生30名、中学生1名、大人5名の参加をいただきスタッフ関係者28名を合わせ総勢64名が下物町周辺を探検した。今回の探検では、下物町の名前の由来や歴史などを学習することができた。また烏丸半島のシンボルであるハスの花冠を使ってミニ盆栽を作り真夏の1日を楽しんだ。



【ハスの花冠を使ったミニ盆栽作品】

5 【事業実施上の課題】

子どもたちを集める点で夏休みの平日開催としたが、子どもは参加できても大人が参加できないなどの日程調整も難しい。また事業の性格上、日中での事業実施となるため、近年の猛暑で熱中症等の防止対策を十分に考えなければならない。

平成27年度 地域協働合校実践事例集

平成28年（2016年）3月

発行：草津市教育委員会事務局生涯学習課

〒525-8588 滋賀県草津市草津三丁目13番30号

TEL：077-561-2427

FAX：077-528-4962

E-mail：shogaku@city.kusatsu.lg.jp